

青山教会会報

「その名はヨハネ」

マラキ書二章二三―二四節
ルカによる福音書一章八―二五節

牧師 増田将平

この物語の直後にはこう記されています。「六か月目に、天使ガブリエルは、ナザレというガリラヤの町に神から遣わされた」。マリアへの受胎告知の場面です。この天使がマリアの家に行く前に訪ねた人がいます。ザカリアという名の祭司です。ザカリアが神殿で祈っていると向こう側に誰かいることに気づきました。それは人ではなく天使でした。ザカリアは恐怖のあまり息もできなくなりました。天使は言いました。「恐れることはない。ザカリア、あなたの願いは聞き入れられた。あなたに大きな喜びを与えよう。妻エリサベトは男の子を産む。その子をヨハネ

と名付けなさい」

ザカリアと妻のエリサベトには子どもがいまいませんでした。当時は夫婦に子どもがないことは神様から見捨てられているからだと思われていました。ザカリアと妻は小さい時から神様を信じて生きてきました。若い時はよく祈っていました。「神様、私どもに子どもをください」

この祈りを忘れてから何十年も経ちました。老夫婦になったのです。夫婦の間でも言わなかったことがありました。「私どもは神様から祝福されていないのではないだろうか」ということです。だから、「あなたの祈りは聞き入れられた」と言われてもすぐにはわからなかったのです。この時の祈りは子どもなことではなく、「神様、どうかこの国を救ってください。この世界にあなたの救いを与えてください」ということでした。

天使は告げました。「彼は偉大な預言者になる。救い主に先立って、イスマエルの子の心を神に向ける人となる」。ザカリアは言いました。「それが本当に実現するという証拠をください。私は老人です。妻も年を取っています」。ザカリアは自分しか見ていません。自分の頭だけで考えています。私どもも言うのではないで

しょうか。「神を信じるには私はあまりにも歳を取り過ぎています」「私は不真面目な人間ですから」「私には立派な信仰がありませんから」

ザカリアが年をとっているのは本当のことです。謙虚な言葉にも聞こえませんが、でもザカリアの本心は「年を取り過ぎていて」ということでした。「神様の言葉が実現するには年を取り過ぎていて。喜びの知らせを受け取るには遅すぎる」

一方この後で登場するマリアは十代の乙女でした。天使のお告げを聞いて彼女は言います。「どうしてそんなことがありえましょう。私は男の人を知りませんのに」。言い換えればこういうことでしょう。「どうして私なのですか。救い主の母になるなんて、私は若過ぎます」

こうしてクリスマス物語は、喜びの知らせを聞いたのだけれども、信じられない人から始まっています。クリスマスはこのような人たちのためにあります。ザカリアのように神様を信じられない人、人生をあきらめている人たちのためにあるのです。

ヨハネという名前の意味は「主は恵み深い」です。神様が私どもに恵みを与えようとなさっているとき、年を取り過ぎ

ているということも、若過ぎるといふこともないのです。

すると天使は名前を名乗ります。「わたしはガブリエル」。ガブリエルとは「神の人」という意味です。ガブリエルは旧約聖書にも登場します。不思議な幻を見たダニエルに現れて幻の意味を解き明かしています。ザカリアの時代よりも五〇〇年前の話です。「私はお前よりもはるかに長く生きて神の前で仕えている」「この喜ばしい知らせを伝えるために神がわたしを遣わしたのだ。これからこの事の起こる日まであなたは話すことができなくなる。時が来れば実現するわたしの言葉を信じなかつたからだ」

「この事の起こる日まで」、つまりヨハネが生まれるまでの十カ月間、ザカリアの口だけでなく耳も閉ざされました。「神様の言葉だけに聞きなさい」ということでしょう。目は見えるので、沈黙の中で聖書を読んだでしょう。やがて天使の言葉を思い出して気づきました。「逆らう者に正しい人の分別を持たせ」、これは私のことだ。さて私の心はどこに向いていたのだろうか。「父の心を子に向けさせ」、これも私のことだ。私どもから生まれて来る男の子に心に向けよう。この子から

始まって、救い主がお生まれになるといふ。この救い主に心に向けよう。

だんだん大きくなって行く妻エリサベトのお腹を見て、神の言葉がザカリアとエリサベトに働いていることがわかりました。

ヨハネが誕生しました。父が名前を付けるならわしでしたが、彼は板にこう記しました。「この子の名はヨハネ」（主は恵み深い）。するとたちまち、ザカリアの口が開かれ、舌がほどけ、神を賛美し始めます。口を開かれたザカリアは賛美の歌を歌い始めました。

「主なる神が民のところに来てくださった」「わたしどもの心は神様から遠く離れていた。こんな私のところに、不信仰な私のところに神様が訪ねてくださった。神様、あなたがかつて先祖アブラハムに言われました。『私はあなたを祝福する。あなたの子孫によって世界中の人々が祝福される』この約束の通りに実現してくださいました。私があなたの約束を忘れても、神様は忘れないで実現してくださいます」

ザカリアという名前の意味は「神は忘れない」です。彼自身が忘れていた祈りを、神様は覚えておられました。この老夫婦は神様の祝福を確信することができ

ませんでした。信じることは止めませんでした。この矛盾の只中に、主イエスが来てくださった。神様の働きを信じることができないう人間を神様は忘れずに救ってください。「救う」ということは私どもには敵がいるということではないのでしょうか。敵とは神様から私を遠ざけようとする力のことです。悪魔の力、罪の力、死の力があります。敵は私どもをいろうんな作戦を使って、不安にし、怖がらせます。すると私どもは思い始めます。「私は祝福されていないのではないか」

私どもが決して勝てない敵と闘うために、主イエス・キリストはお生まれになりました。クリスマスは戦いの始まりです。主イエスの最も激しい戦いが十字架でした。主イエスは戦いに勝利されました。復活なさったのです。だから、天使はザカリアに、荒野の羊飼いたちに、そして私どもに告げます。「恐れることはない」「主が語られたことは実現する」

神様の言葉はザカリア夫婦に実現しました。神様は私どもにも働いてくださって賛美の声をくださいます。共に神様を讃えましょう。「その名はヨハネ」「主は恵み深い」

(十一月二四日礼拝説教要旨)